

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102758		
法人名	有限会社イキイキライフセンター		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	香川県高松市松並町649番地1		
自己評価作成日	平成28年6月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/37/">http://www.kaigokensaku.jp/37/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成28年7月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット利用定員9名のホームです。少人数ということで、自宅3世代と一緒に生活しているような賑やかで暖かなホームです。ホームの最大の特徴は、県内外問わず毎月出かけていることです。外食はもちろんですが朝はモーニングを食べに行き、カラオケや好きな歌手のコンサートを観に行ったり、日帰りですが県外には年に数回旅行にも行きます。また、自治会に加入しているの、地域行事などにご利用者と参加するなどして、地域の中で生活しています。終の棲家として、ご利用者には楽しい思い出を沢山作っていただけるよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、入居者も職員も互いに家族という考え方を基本に、利用者が、家庭的な雰囲気の中で、安心して穏やかに暮らしていることを目指している。早くから自治会に加入して、地域の一人としての役割を果たし、地域行事に積極的に参加し、地域の人々との交流を図っている。また、友人の訪問や友人と一緒に外出したり、孫の結婚式に参加したり等、馴染みの人や場との関係を継続できるよう支援に努めている。事業所では、利用者を終末期までお世話するのが当然と考え、利用者や家族の希望により看取り介護を行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、共有して実践に取り組んでいる。	事業所開設以来、「大きな家族」の考え方を基に、利用者が家庭にいるような「ほっと」できる環境作りを目指し、「ほっと」を理念に掲げ、全職員がこれを理解し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、事業所自体が地域の一員として、利用者や地域の行事やイベントに参加したり、毎月「ほおずき新聞」を小中学校や自治会に回覧しているが、日常的に交流とまではできていない。	早くから自治会に加入して、地域の一員としての役割を果たすとともに、地域行事等には積極的に参加して地域の人たちと交流している。また、事業所の機関誌「ほおずき新聞」を小中学校や自治会に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「ほおずき新聞」を使って生活状況を知ってもらえるようにし、また、認知症の人の症状や行動、支援方法などを記載して回覧し、理解してもらえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政や自治会からの情報やアドバイスを受け、サービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、老人会長、地域包括支援センター職員が参加し、定期的開催している。家族にも呼びかけているが参加が得られていない。事業所の活動報告を行い、意見を聴いて運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の相談などはしているが、密に連絡をして協力関係を築くようには取り組んでいない。	市担当者とは、電話等で質問したり、相談したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が理解し取り組んでいるが、過去に4～5回独りで外出してしまう事故があったため、玄関に通じるドアは施錠している。	玄関が、交通量の多い市道に面しているため、事故防止のため、玄関に通じるドアは施錠している。ベッドからの転落防止柵を家族の同意を得て構じることがある。新人職員にはマニュアルを渡しているが、研修等は実施していない。	身体拘束禁止について、新人職員にも十分理解が深まるよう、全職員を対象に身体拘束防止のための研修の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体観察や行動変化など常に注意を払い、事例が疑われる場合には、報告を義務付け、話し合い見過ごさない体制をとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されているご利用者が居られるので、ご家族がなる場合や司法書士など第三者がなる場合など、実例を通して学ぶ機会ができ、今後活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。利用していく上で疑問点などある場合は、その都度説明して理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご利用者とは毎日の生活や会話の中から要望などを聞き、ご家族とは毎月の生活状況報告の手紙や面会時の会話などで信頼関係を築き、意見や要望を言えるよう心がけている。	利用者の意見は、毎日の支援や会話の中から、表情観察等を行い把握している。意思表示できない利用者からは態度やゼスチャーから理解するようにしている。家族の意見は面会時や生活状況報告(手紙)等を利用して把握に努め、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングを通して意見交換を行ったり、職員が何時でも気づいた時、直ぐに意見や提案を言い合える機会を設けて、反映させている。	毎月のミーティングや日常業務の中で、職員はいつでも意見や提案が出せる環境を用意し、職員の意見や提案をよく聴いて、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も業務に従事し、職場環境の状況や職員個々の勤務状況など把握し、待遇面の充実に努め、また、資格取得のための支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は回覧して、希望の研修を受けることができるよう、シフトを工夫するなどして、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、情報交換を行っているが、他事業所への訪問などの交流はできていない。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者に生活状況を伺い、不安を感じ取り、思いや要望などに耳を傾けながら、ご利用者が安心して生活を送って頂けるよう職員間で話し合いながら支援を行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時には自宅へも訪問し、ご家族から生活状況など伺い、困っていること、不安なこと、これからのこと、要望などに耳を傾けながら、ご家族が安心してサービスを導入できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い現状を把握して、今何が必要かを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることは、職員とご利用者が協力しながら行うようにして、暮らしを共にする者同士支えあって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の立場や状況の変化を把握し、面会時などに要望を聞き、一緒に考えながら共にご利用者を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との外出や冠婚葬祭参列、帰省や馴染みの店への外出など、関係継続の支援に努めている。	利用者、家族との人間関係が密である。友人が訪ねて来て一緒に外出したり、孫の結婚式に参列したり、親戚や友人の葬儀出席等、在宅なら当たり前に参加する行事に参加等を支援し、馴染みの人や場との関係継続に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を下膳できるご利用者が、できないご利用者のお膳を下げ、洗ったりするなど、生活の中で関わり共に助け合いながら生活を送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が縁で年間のお米を毎年耕作して頂いている。命日にはお供え物を送ったり、訪問したりして、関係性を大切にしている。ご家族がホームを訪ねて下さることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努め、意思表示が困難なご利用者については、ご家族からの情報や生活歴を基に検討している。	一人ひとりの言動を逃さずメモに残し、その積み重ねで利用者の思いを正確に把握するよう努めている。みんなの思いがほぼ一致したところでトコロテンを食べに行ったり等、臨機応変に利用者の思いを実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族との会話などを大切に、その中から生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の記録を残し、心身の状況・変化などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにおいて、課題について話し合い、ご利用者やご家族からの意見なども反映し作成している。	毎月のミーティングで課題やケアのあり方について検討し、その際、利用者や家族の意見も反映させ、チームでモニタリングと介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、重要なことは申し送りとして記録し、情報を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービスなど希望があれば、関連事業所と協力して、ご利用者の要望に沿えるよう柔軟な支援を行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の24時間の医療支援や認知症専門医・定期的な歯科医往診など、適切な医療が受けられ、安心して暮らせることができるようにしている。	内科、心療内科、歯科医の往診がある。薬は、薬剤師が一括して調剤管理と服薬指導をしている。協力医療機関の往診は、利用者や家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は居ないが、体調不良時や少しの変化など、気付いたことは管理者含め職員間で報告・相談し、かかりつけ医に連絡して適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	365日対応可能なかかりつけ医の医療支援を受けることで、入院せずホームでの生活を継続しながら治療が受けられ、安心して生活することができる。入院した場合は早期退院できるように、主治医と病院関係者との協力関係に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の協力の下、看取り介護を実践している。看取りに関する指針を重要事項説明書に明記し同意を得ており、実際に看取り介護を行う場合は、再度、ご利用者やご家族の要望を確認するため、同意書を作成している。	利用者や家族の要望があれば、主治医の協力のもと、事業所は看取り介護に取り組んでいる。毎年平均一人は看取っている。最近も、女性利用者の見取り介護を4か月間行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による救急救命講習を実施して、応急処置やAEDの使用訓練など定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の中で避難訓練を行い、避難の方法を身につけると共に、地域自主防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。	2～3階に利用者が居住しており、避難は外階段を利用することになるが、緊急時全員安全に避難させられるか、管理者は不安を抱いている。緊急時の対応について、近隣住民に協力を依頼しているが、避難訓練時の立会にまでは至っていない。	夜間の場合、職員のみで利用者を安全に避難させることは困難と思われるので、まずは避難場所を確定し、そこでの利用者の見守り等を近隣住民に依頼する等、地域との協力体制について運営推進会議で具体的に検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けて、相手を敬う気持ちを大切に対応している。基本は「自分がされて嫌なことはしない」を、職員全員が心がけている。	利用者を敬う気持をもって、ことば遣いにも気をつけるようにしている。特に、言葉のトーンやニュアンスで相手を不快にさせることもあるので気を配っている。「自分が言われて不快になるようなことは言わない、しない」を基本に考え、実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表せるよう、声かけや環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間などは、一人ひとりのペースや状況に応じて、柔軟に対応しているが、その日の過ごし方などは、共同生活を押し付けている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用したり、毛染めの支援や髭剃りなど、身だしなみに気を配り、服装も好みや個性を大事にして、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者は調理は行っていないが、食材の下準備(野菜を洗う・切る・米を洗う・フライの衣付けや餃子などの簡単な作業)や調理器の片付け・食器洗いなどそれぞれできる事は職員と一緒にしている。	調理の下準備や食器の片付け、食器洗い等、利用者それぞれが自分のできる力を発揮して行っている。ゆっくり、おいしく、楽しそうに完食していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり状態に合わせて、刻み食など、摂取しやすいよう工夫し、水分もとろみを付けて提供するなどしている。体調により摂取量が少なく栄養バランスが悪い場合は、高栄養食などの補助食や介護食を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は就寝前に洗浄液に浸け、清潔保持と誤嚥予防に努めている。歯肉炎や口臭予防のための歯磨き剤を使用し、うがいができない方にはマウススポンジ使用するなど、毎食後一人ひとりの口腔状態に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、それぞれに合った時間に声かけしたりトイレ誘導を行っている。身体状況によりトイレでの排泄が困難な利用者でも、排泄パターンを把握することで、1日に1回はトイレで排泄することができている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしている。排泄後、利用者自らが、白板に排泄等の時間を記入している。おむつ利用者もいるが、できるだけトイレ排泄ができるよう自立支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を記し、排便状況は常に注意している。なるべく薬には頼らないよう、食物の工夫や、薬草茶など、ご利用者個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった時間に入浴時間を設けているため、一人ひとりの希望時間に合わせた入浴支援はできていないが、日曜日を除いて毎日入浴できるよう支援している。	日曜日を除き、毎日入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者には、トイレのあとで誘ったり、他の利用者に誘ってもらったりして、入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や身体状態に応じて、日中ベッドで休息していただいたり、居眠りの予防や日中の活動を促し、気持ち良く安眠できるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師からの説明や処方薬の説明書を確認し、分からない事は必ず聞くようにして、目的や副作用など理解した上で、服薬支援している。変化などは記録し主治医に報告・相談し、連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事や裁縫、買い物付添い、花の水やりなど、一人ひとりの力を活かした役割への支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	映画やコンサート、お祭り、カラオケ、モーニングを食べに行くなど、個々に希望の場所に出かけている。また、月1回は県内外問わず出かけ、楽しみのある暮らしを支援している。	事業所全体で外出支援に力を注いでいる。毎月1回は、車3台で県内外問わず出かける他、個別に利用者の要望に応じて、モーニングサービスを食べに行ったり、カラオケ、コンサート映画、祭り見物、買い物、昔の住居付近を訪ねる等、外出を楽しむ支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者やご家族が希望する場合は、お金は所持していただいている。ただ、管理は職員が行い、外出や買い物の際に支払いをご利用者が行えるようサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話したい」という要望がある時は、携帯電話があるので、自由に電話していただいている。但し、頻回にならないよう調節はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室は圧迫感の無いよう、十分な広さを備えている。キッチンには3~4人同時に作業行える広さで、調理しながらリビングにいますご利用者の様子を見ることができ、音や匂いが生活観を生み寛げる空間になっている。	共用空間は清潔で、周りにはソファが置かれ、ゆっくり寛げる環境である。壁面には利用者の作品等が飾られ、犬も飼っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食卓で、思い思いに過ごされていて、気の合う者同士で会話したり、塗り絵や裁縫などされたり、独りで気ままに寛いで居られたりと、個々の居場所ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物(人形・オーディオ類・美容道具など)、写真や思い出の物などを活かして、利用者が自分の居室と思っていただけよう工夫している。	居室は、風通しがよく、明るい。居室には、手作りの名札がかけられている。部屋はそれぞれ思い思いにレイアウトされ、我が城を築いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室、階段などには手すりを設置し安全を確保している。トイレは車椅子のままでも動きやすく、介助者が介助しやすいよう広さで、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		